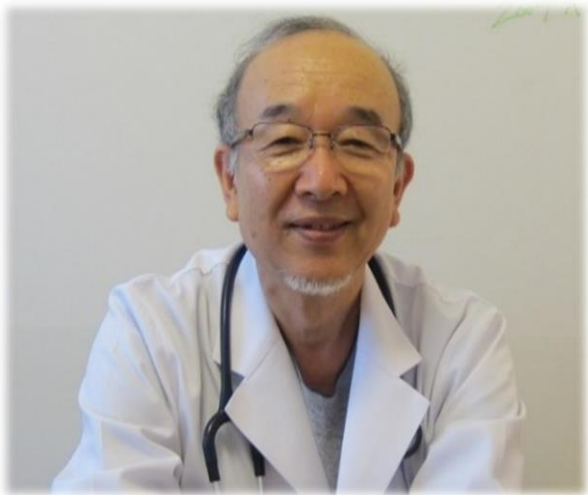


主催：和歌山県立医科大学附属病院・和歌山県立図書館
がん患者・家族、県民のための公開講座

『いのちの日々』



野の花診療所 院長

徳永 進 先生

徳永進先生 プロフィール

1948年、鳥取県に生まれる。京都大学医学部を卒業。鳥取赤十字病院内科部長を経て、2001年鳥取市内にてホスピスケアを行う有床診療所「野の花診療所」を開設。1982年『死の中の笑み』（ゆみる出版）で第4回講談社ノンフィクション賞を受賞。1992年地域医療への貢献を認められ第1回若月賞（独自の信念で地域医療をしている人に贈られる）を受賞。著書に『隔離』、『臨床に吹く風』、『死の文化を豊かに』、『野の花ホスピスだより』、『死ぬのは、こわい?』、『団塊69（ロック）臨床医のつぶやき』など多数。

2018年2月12日（月）
振替休日

13:00～15:00

受付開始12:30～

県立図書館

メディア・アートホール

和歌山市西高松1-7-38

TEL 073-436-9500

入場無料・申込必要

「～徳永先生からのメッセージ～」

どちらであっても すきの波、きらいの波

誰もが人生、正しい答えが一つあると思う。でも人生の現場を生きると、思うようにいかない、と感じる。山登りだって、えらい目して汗流してやっと頂きに辿り着いて、渡る風を感じれる。一杯の水のおいしさを知れる。「苦しい」と「楽」は背中合わせ。

急に難しくなるけど「ひとりぼっち」も人間の真なる姿と思えるが、「みんな」も否定しにくい。お互いの力の支えなしには生きるのは難しい。死を迎える時にも、自分でない人に支えられる、助けられるのはほんとうだ。

身近なことでは、「すき」は肯定的なうれしい感情だが、「きらい」という否定的な感情なしで人は生きることが不可能。行ったり来たりの間で人は日々を生きる。その波の動きが、生死の全体を包んでいてくれるようにも思える。



『どちらであっても
臨床は反対言葉の群生地』
徳永進／著 岩波書店

【お申し込み・お問い合わせ】

和歌山県立医科大学附属病院 患者支援センター

TEL 073-441-0778

FAX 073-441-0862

裏面の申込み用紙かTELでお申し込みください

駐車場は限りがありますので、公共交通機関をご利用ください

がん患者・家族、県民のための公開講座

FAX 073-441-0862

和歌山医大病院 患者支援センター宛

定員になり次第締切

お名前	電話番号	関係機関の場合 ご所属・職名

会場案内

